

No.7 2024年1月14日

公現後第二主日礼拝
 説教『カナの婚礼のイエスから知られることは』
 山根真三師
 司会 神笠千愛さん
 奏楽 栗原斗志子さん
 招詞 IIコリント人への手紙2章1～5節
 の祈 (564)
 讃詠 5 4 6
 交読詩編 詩 1 4 8 編
 祈禱
 讃美歌 2 3 4 A
 使徒信条 (566)
 聖書 ヨハネによる福音書2章1～11節
 説教 (口語訳137頁、新共同訳165頁)

『カナの婚礼のイエスから知られることは』
 祈禱
 讃美歌 21 - 4 7 9
 献金
 感謝
 報謝
 頌告 5 4 4
 祝禱
 後奏

次週の礼拝(公現後第三主日礼拝)
 説教『ただイエスのお言葉をください』
 マタイによる福音書8章5節～13節
 招詞 ローマ書1章14～17節/交読詩篇86編
 讃美歌 546、21-151、284、539

礼拝当番
 今週 14日 司会 神笠さん 献金 市川さん
 次週 21日 司会 高橋さん 献金 吉丸さん
 会堂清掃奉仕 1月19日(金)
 午後4時～ めぐみ幼稚園保育者

本日の集会

★教会学校 午前9時45分
 ★コーヒータイム 礼拝後～
 ●レコード・コンサート 午後1時～3時30分
 ビゼー アルルの女第一・二組曲
 ビゼー カルメン組曲
 R.シュトラウス アルプス交響曲

今週の集会/スケジュール

♠広島キリスト教信徒会理事会 1月16日(火)11:00～12:30 於:広島復活教会
 ♠広島拘置所教誨奉仕 1月17日(水)13:30～16:00 施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい
 ♠外国人住民基本法制定を求める全国キリスト者集会 1月18日(木)18:30～20:00 於:バプテスト教会
 お話し:今給黎眞弓牧師(豊中バプテスト教会)
 ピアノ演奏と証し:崔 善愛さん
 全国協議会公開集会 1月25日(木)18:30～20:00
 ♠めぐみ幼稚園礼拝 1月19日(金)10:30～

次週以降のスケジュール等

★カトリックとの一致祈禱会 1月28日(日)14:00～
 講師:三谷高康先生(広島女学院理事長)
 会場:カトリック観音町教会
 ★2.11「建国記念の日」を問う広島集会 2月11日(日)14:00～16:00 会場:広島カトリック会館ホール
 講師:シスター大田 象徴天皇制についての語り合い

◎ 1月教会役員会報告

1. 教区通信により教区内の情報を交換した。
2. 11月分会計報告を承認。クリスマス献金は目標達成。緊急に能登半島地震救援として5万円を支出。
3. 今年度のイースターは3月31日。聖餐式を執行。
4. 来年度から聖餐式は第一主日礼拝とする。
(司会当番)1/21 高橋さん、1/28 根角さん、2/4 吉丸さん、2/11 市川さん、2/18 神笠さん、2/25 高橋さん、

教会学校	0	0	0
主日礼拝	3	15	18

◇今週の説教要旨(公現後第二主日礼拝)

『カナの婚礼のイエスから知られることは』ヨハネ2:1～11
 能登半島地震の悲劇は正月だったことだ。帰省した家族が犠牲になっているからだ。夫々が生きなが夫々がその人生を共有している時だった。家族関係を信仰は超克する時があって、イエスの家族についての描写がそうであったりする。しかし今日のカナの婚宴はそうではなく、イエスの家族関係を垣間見ることが出来る。福音書の描写でイエスに親しく関わった母マリヤの姿が描かれているのはここだけだ。ユダヤ人社会におけるヨハネの教会が置かれた状況を垣間見ることが出来る。共観福音書では母、家族のイエスへの無理解が描かれるのだが、ここでは母のイエスへの理解が示されるのだろうか。ヨハネ福音書のイエスへの寄り添いが示される。最初の奇跡が母からの願いによって導入され、しかも病人の癒しや障害を持った方々への癒しでもなく、婚礼における葡萄酒不足への対応がイエスの所謂最初の奇跡として描かれているのだ。これは私たちの常識からすれば少し違った情景のように思えるが、ここにヨハネの教会が目指し、求めたイエスの姿がある。私たちが営む日常生活の喜び、悲しみをこそ大切にされる姿がここでは示されているのだ。喜びに心から共感されるイエスは、悲しみ、絶望にあった私たちを支え、理解し、慰めてくださるのだと。しかしその行為は恰も日常の出来事のように示される。料理番の人に、潔めのための水瓶に水を一杯にするようにと。それは料理番の人にとっては特別な行為ではなかった。彼らはイエスの言葉に従って料理頭のところへそれを持って行ったところ、それは最上の葡萄酒に変わっていた。これはイエスの婚礼への祝福そのものだった。ヨハネ福音書が私達に示すイエスは私たちの日常を大切にすることを求められる。喜び、そしてラザロの復活の出来事に示されるように悲しみにも最大限寄り添って下さる方なのだ。